

日本赤十字社和歌山医療センター 医療連携だより

夏号
No. 78



和歌山医療センター

和歌山市小松原通四丁目20番地
TEL: 0120-965-582 (医療連携課)
FAX: 0120-937-510 (医療連携課)

(発行責任者)

副院長 兼 管理局長 山下 幸孝
e-mail: renkei@wakayama-med.jrc.or.jp



日赤和歌山医療センターの新型コロナウイルス感染症への対応と現状

医療連携総合支援センター長・高度救命救急センター長 中 大 輔

日頃から数多くの患者さんを御紹介頂きまして誠に有難うございます。

今回、当センターにおける新型コロナウイルス感染症への対応と現状について御報告させていただきます。

2020年2月13日、和歌山県で初めての新型コロナウイルス症例が報告され、早いもので1年5か月が経過しました。当センターは県内で唯一の第一・第二種感染症指定医療機関でもあり、早期から新型コロナウイルス患者を積極的に受け入れ、感染症内科や集中治療部など各診療科が協力し、軽症患者からICUでの人工呼吸管理を必要とするような重篤患者まで、すべての重症度の患者に対応してきました。

このコロナ禍において、当センターが新たに取り組んできた感染対策は数多くありますが、その代表的なものとしては、救急外来や各病棟での陰圧室の増設、また抗原検査機器の配備などが挙げられます。特にPCR検査に関しては3種類のPCR検査機器を常備し、検査部の全面的な協力により、入院患者のみならず救急外来患者や外来患者など、PCR検査が必要な患者に対しては、24時間検査が行える体制を構築しています。また県からの要請に応じ、新型コロナウイルス患者の即応病床として集中治療室3床、南館2階病棟37床（うち8床はHCU病床）、本館8階産婦人科病棟3床、NICU1床の44床の専用病床も確保しています。

当センターでは、現在まで376名の新型コロナウイルス患者の入院を受け入れてきました（2021

年7月7日時点）。2020年11月初旬から4か月間に渡り蔓延した第三波では160名の患者が入院しましたが、高齢者施設でのクラスターが頻発した影響で、要介護の高齢者や認知症患者などの入院が非常に多く苦労しました。2021年3月中旬からの第四波では、3か月間で170名もの入院患者を受け入れました。第四波は過去に経験がないほどの速さで一気に患者数が増加し、4月中旬には即応病床がほぼ満床になる時期もありました。また変異株（ α 株）の影響なのか、過去に比べ重症患者の占める割合が非常に高く、若年層でも重症化する患者を多く経験しました。

このように当センターは数多くの新型コロナウイルス患者を受け入れてきましたが、大看板の一つである「救急外来」に関しては、救急患者の受け入れ制限など一切おこなうことなく、当センターの基本理念である「断らない救急」を継続できています。また、一度の院内感染も引き起こさず、職員には一人の感染者も出さず、がん医療に代表される高度医療も普段通り行ってきました。これは職員の感染防御に対する意識の高さと、職員全員の日常生活の節制の賜物であると自負しています。

新型コロナウイルス感染症の終息にはまだまだ時間を要すると思われるかもしれませんが、職員一同、このまま院内感染を引き起こすことなく、新型コロナウイルス感染症の治療と救急医療、高度医療を三位一体で継続できるように全力を尽くす所存です。

一層の御指導と御鞭撻を何とぞよろしくお願い申し上げます。



新型コロナウイルスワクチン接種と副反応について

感染症内科部長 古宮伸洋

一般に感染症にかかると、原因となる病原体（ウイルスなど）に対する「免疫」が出来ますが、弱毒化したウイルスや、病原体を構成する物質などを基に作ったワクチンを接種することでも同じような「免疫」が出来ます。体にとっては異物であるワクチンを接種することで免疫反応を誘導する訳ですから、発熱などが生じることはある意味でワクチンに対する体の自然な反応です。しかし、ワクチンに期待しているのは体に免疫が出来ることですので、発熱や疼痛など余計な反応は副反応と呼ばれます。

優れたワクチンというものもしっかりと免疫を作り、かつ副反応が少ないものです。現在、国内で使用されている mRNA ワクチンに関して言えば、その感染予防、発症予防、重症化予防効果は大変に優れています。効果が期待出来るとなれば、やはり気になってくるのは副反応ですが、これまでの調査で副反応についてはほぼ把握出来ていると言えます。当センターでも 1500 人以上の職員が接種を行いました。接種後の副反応は過去に報告されてきた通りで、予想も出来ていたため大きな問題は起こりませんでした。

現在、議論があるのは稀な副反応についてです。ワクチンは体に免疫反応を引き起こしますが、免疫反応によって引き起こされる病気は数多く、ワクチン接種後に生じた有害事象が果たしてワクチンによるものなのか、偶然にそのタイミングで発生したものかの区別が困難です。例えば mRNA ワクチンは 10 万人に 1 人くらいの確率で心筋炎を引き起こすのではないかと疑われています。もともと心筋炎はウイルス感染によるものが多いと考えられていますが、実際には原因が同定出来ない場合も多いです。特に軽症の場合は診断も難しく、自然軽快するので見逃されていることも相当ありそうです。ワクチン接種後に原因不明の心筋炎と診断された場合、ワクチンとの因果関係は病理検査、あるいは発生率から統計的に推察するし

がなく、因果関係の証明は非常に困難です。こうした稀な副反応を検出するために、ワクチン接種後に重篤な有害事象が認められた場合は、その因果関係が不明でも報告することになっています。従って報告時点では前後関係はあっても因果関係は不確かな場合が多いのですが、有害事象の報告数だけが独り歩きして、「接種後に 200 人が亡くなる恐ろしいワクチン」などと誤った解釈がインターネットなどで広がっていることは問題です。

ワクチンの効果が高いことは間違いありませんが、万全なものではなく、最近では変異ウイルスへの効果低下も懸念されています。米国疾病管理センター（CDC）は、接種完了者はマスクを外した生活を行っても良い、医療者がもし濃厚接触者となっても就業制限の必要はないとしています。国によってポリシーが異なるのでこれを現在の日本の状況に当てはめることには少し無理があります。「ワクチン接種したから、もう〇〇していいですよ？」と聞かれることがよくあります。COVID-19 により閉塞した状況を打破するために副反応も我慢して接種した訳ですからその気持ちはよく分かります。ただし慎重に状況を見ながら緩和していく必要があります。例えば昨年我慢したので今年は実家に帰省したいということであれば、お互いがワクチンを接種完了した状態で家族だけで時間を過ごすというようにすればリスクは最小限にすることが出来ます。これが帰省のついでに昔の友人たちと飲み会となるとやはりリスクは高くなります。

ワクチンを打つ目的は自分を守ることと、周囲の人を守ることにあります。出来るだけ多くの方が接種する必要がある反面、接種の無理強いにも問題があります。正しい知識を得て受けるか受けないか判断すること、また社会として様々な議論を経て、成熟した対応が出来るようになるにはもう少し時間がかかるのかもしれませんが。



がんセンター通信 ②

副院長 兼 がんセンター副センター長 山下 幸孝



2021年1月12日がんセンターを開業しました。総合病院における大規模ながんセンターは他にあまり参考となる施設が無く、我々も模索しながら発展させていくものとの決意で準備を進めてきました。当院がんセンターの最大の特徴は、「ユニット診療」を中心とした癌診療体制を構築した事です。「ユニット診療」とは、関係する診療科や部門全てを、今までの枠組みを超え一つの診療単位とし、癌患者の診療開始と同時に迅速に情報を共有し、速やかな診断と最善の治療を実現する事を目的としたものです。

大学病院や大病院に見られがちな各教室や各診療科の優れた診療能力ゆえのセクショナリズムを無くすことは誰もが必要と感じていました。その一つの解決策として当がんセンターでは、「ユニット診療」を導入いたしました。具体的には、電子カルテの台帳機能を駆使し、短時間に多くの医療関係者が関与できる体制を構築したことで、診療

経過を透明性の高い開放的なものとし、閉鎖的で旧態依然とした診療は許されないという意識をさらに推進するのに大きく寄与していると感じています。

がんセンター開設直後は診療体制の人的、場所的変更に伴う混乱が一部に見られましたが、適宜修正を加え、現在は以前よりかなりのスピード感をもった癌診療が進められるようになったと実感されるようになりました。今後も現状に満足することなく、常により良き改善を求め、不断の努力を惜しまない覚悟です。院外からは、仕組みが分かりにくいとの声も聞こえてきます。今後どうすれば院内的にも院外的にも満足のいく、さらに充実したがんセンターを実現出来るかは、多くの方のご意見、ご叱責に細やかに応える事から可能になると考えます。これからも医療連携の諸先生方と共に考えながら歩んでいけますことを心より願っております。

令和3年度診療科別合同セミナー・講演会等実施一覧

当センターでは、各種講演会を実施しております。
開催時には、随時ご案内いたしますので是非ご参加下さい。

日時	診療科	会合・講演会名	場所	参加人数 (合計)
4月22日(木)	呼吸器内科	和歌山呼吸器疾患カンファレンス	Web 配信	27名
5月12日(水)	呼吸器内科	和歌山呼吸器疾患 Online forum	Web 配信	23名
5月26日(水)	循環器内科	循環器疾患懇話会	Web 配信	31名
5月26日(水)	整形外科	和歌山県骨折リエゾンサービス地域連携セミナー -二次骨折を起こさない為の骨粗鬆症リエゾンサービス-	Web 配信	29名
6月16日(水)	循環器内科	心血管治療連携 Web フォーラム	Web 配信	29名
6月17日(木)	乳腺外科	第14回 Breast Cancer Network Construction Seminar	Web 配信	10名

退職のお知らせ

6月30日付

放射線診断科 **吉原 桂一** (副部長)
第一救急科 **平 卓也** (専攻医)

上記の職員が退職いたしました。
大変お世話になりました。

就任のお知らせ

5月1日付

形成外科 **石川 弦太** (医師)

上記の職員が新たに就任いたしました。
よろしくお祈りいたします。

紹介初診患者診察担当医師表

2021年7月1日現在

ユニット名 / 診療科名		月	火	水	木	金	
がんセンター	食道・胃・大腸ユニット	消化内	副部長 瀬田 剛史	副部長 赤松 拓司	副部長 岩上 裕吉	副部長 中谷 泰樹	副部長 赤松 拓司
	食道・胃ユニット	外科	副部長 辰林 太一	副部長 奥村 公一	宮本 匠	部長 山下 好人	《交替制》
	大腸ユニット	外科	副部長 山田 真規	副部長 細川 慎一	副部長 横山 智至	《交替制》	部長 伊東 大輔
	肝胆臓ユニット	消化内	副院長 山下 幸孝	部長 上野山 義人	副部長 瀬田 剛史	副院長 山下 幸孝	部長 上野山 義人
		外科	—	—	—	副部長 川添 准矢	部長 安近 健太郎
	肺ユニット	呼内	部長 杉田 孝和	副部長 堀川 禎夫	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡
		呼外	—	部長 石川 将史	—	—	部長 石川 将史
	※乳腺ユニット	乳外	副部長 鳥井 雅恵	—	部長 松谷 泰男	副部長 鳥井 雅恵	部長 松谷 泰男
	前立腺・尿路ユニット	泌尿	部長 玉置 雅弘	部長 伊藤 哲之	—	部長 玉置 雅弘	部長 伊藤 哲之
	※骨ユニット(午後)	整形	—	—	部長 玉置 康之	—	—
	脳ユニット	脳外	部長 津浦 光晴	—	—	—	—
	血液ユニット	血内	副部長 田中 康博	部長 直川 匡晴	副部長 岡 智子	石井 彰	田村 啓人
	※原発不明ユニット	腫内	—	—	—	川上 尚人	—
	※遺伝性腫瘍ユニット	—	—	—	副部長 豊福 彰(午後)	川上 尚人	—
	※放射線治療科	放治	副部長 小倉 健吾	部長 根来 慶春	院長 平岡 眞寛	部長 根来 慶春	副部長 小倉 健吾
※緩和ケア内科(午後)	緩和	部長 一宮 正人	吉村 聖子	筒井 一成	筒井 一成	今泉 澄人	
消化器内科	消化器内科	副院長 山下 幸孝	部長 上野山 義人	副部長 瀬田 剛史	副院長 山下 幸孝	部長 上野山 義人	
		副部長 浦井 俊二	副部長 赤松 拓司	副部長 岩上 裕吉	副部長 浦井 俊二	副部長 赤松 拓司	
		副部長 瀬田 剛史	副部長 中谷 泰樹	梅村 壮一郎	副部長 中谷 泰樹	副部長 松本 久和	
		松本 久和	中野 省吾	松山 和輝	重里 徳子	小西 隆文	
	枝川 剛也	堀 悠佑	外村 晃平	脇田 碧	荻野 真也		
	野間 淳之	—	—	—	寺下 友子		
	野間 淳之	部長 宇山 志朗	副部長 一宮 正人	部長 宇山 志朗	青山 諒平		
	野間 淳之	川入 章史	—	—	—		
	呼吸器内科	副部長 渡邊 創	副部長 堀川 禎夫	河内 寛明	部長 池上 達義	副部長 寺下 聡	
	呼吸器外科	—	部長 石川 将史	副部長 福井 哲矢	—	部長 石川 将史	
	循環器内科	部長 豊福 守	副部長 田崎 淳一	副部長 渡辺 大基	辰島 正二郎	藤田 啓誠	
	副部長 花澤 康司	《末梢血管外来》	伊勢田 高寛	—	—		
	糖尿病内分泌内科	副院長 井上 元	廣島 知直	副部長 稲葉 秀文	廣島 知直	副院長 井上 元	
	腎臓内科	嘉藤 光歩	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太	部長 東 義人	副部長 杉谷 盛太	
	山崎 瑞歩	嘉藤 光歩	小緑 翔太	前沢 浩司	副部長 杉谷 盛太		
—	児玉 健志	—	市岡 光洋	大森 翔平			
※心療内科	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人	—	副部長 今泉 澄人		
※リウマチ科	秋月 修治(第1・2・4・5)	岡本 翔太	船越 莊平	—	東 直人		
田中 望美(第2・4)	—	納田 安啓	—	—			
感染症内科	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》	《交替制》		
※脳神経内科	部長 山下 博史	副部長 神辺 大輔	部長 山下 博史	木下 久徳	副部長 神辺 大輔		
孝橋 睦生	十川 夏子	大原 寛明	平田 真也	副部長 神辺 大輔			
山中 治郎(隔週)	—	—	—	和田 一孝(隔週)			
河村 祐貴(隔週)	—	—	—	松本 瑞樹(隔週)			
※漢方内科	—	—	部長 山田 伸	—	—		
皮膚科	《交替制》	奥平 尚子	《交替制》	大塚 理加	部長 辻岡 馨		
小児科	副部長 濱畑 啓悟	副院長 吉田 晃	副部長 原 茂登	副部長 濱畑 啓悟	副院長 吉田 晃		
副部長 杉峰 啓憲	副部長 深尾 大輔	副部長 横山 宏司	副部長 杉峰 啓憲	副部長 横山 宏司			
副部長 横山 宏司	—	—	古宮 圭	—			
※精神科	部長 東 睦広	—	—	部長 東 睦広	—		
心臓血管外科	在留部長 小西 裕	—	部長 金光 尚樹	—	—		
部長 金光 尚樹	—	—	《静脈瘤外来》	—	—		
小児外科	—	副部長 堀池 正樹	副部長 横山 智至	副部長 堀池 正樹	—		
整形外科	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之	副部長 田中 慶尚	部長 玉置 康之	副部長 田中 康之		
副部長 田中 慶尚	副部長 小塚 隆宏	副部長 古川 剛	副部長 小塚 隆宏	副部長 古川 剛			
副部長 堀池 正樹	伊藤 貴之	伊藤 貴之	—	堀池 正樹			
眼科	部長 荻野 頌	副部長 三木 敏耶	部長 荻野 頌	副部長 黒田 健一	副部長 川島 祐		
《交替制》	—	—	川島 京子(7/14まで)	—	—		
耳鼻咽喉科	部長 三浦 誠	《交替制》	部長 三浦 誠	副部長 木村 俊哉	副部長 辻村 隆司		
産婦人科	副部長 山村 省吾(第1・3・5)	副部長 豊福 彰(第1・3・5)	平山 貴裕(第1・3・5)	副部長 坂田 晴美(第1・3・5)	部長 吉田 隆昭		
副部長 山崎 優紀夫(第2・4)	日野 麻世(第2・4)	春日 摩耶(第2・4)	副部長 横山 智子(第2・4)	—			
泌尿器科	部長 玉置 雅弘	部長 伊藤 哲之	—	部長 玉置 雅弘	部長 伊藤 哲之		
副部長 中嶋 正和	副部長 中嶋 正和	—	山田 祐也	副部長 山田 祐也			
樋上 健介	太田 秀人	—	樋上 健介	副部長 樋上 健介			
副部長 奥村 なつみ	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕	副部長 清水 航治	部長 平石 幸裕			
副部長 奥村 なつみ	—	佐武 明日香	—	—			
脳神経外科	《交替制》	副部長 武本 英樹	《交替制》	部長 津浦 光晴	—		
—	—	—	—	《脳血管内治療専門外来》			
※麻酔科	—	副部長 吉村 聖子	宮崎 里紗	—	副部長 片岩 真依子		
形成外科	石川 弦太	—	中林 容	石川 弦太	部長 奥村 慶之		
《小児形成外科外来》	—	—	—	—	—		
神経救急部	—	—	—	部長 中 大輔	—		

赤字…女医 ※…完全予約制